

エイズ・結核・マラリアの ない未来に向けて 日本の力を



FGFJレポート

November 2016 No.11

グローバルファンド日本委員会

Friends of the Global Fund, Japan
Joining the Fight Against AIDS, Tuberculosis and Malaria

視察現場から

日本の拠出金はグローバルファンド を通じて、途上国でどのような成果 を挙げているのでしょうか。現地には どのような課題があるのでしょうか。 エイズ・結核・マラリア対策において、 日本の技術・サービスをもっと活用 できる領域はないのでしょうか。そ れらの答えを探すべく、グローバル ファンド日本委員会は9月上旬に、 議員タスクフォースのメンバーの中 から4名の国会議員―木原誠二衆 議院議員、黄川田仁志衆議院議員、 豊田真由子衆議院議員、濱村進衆 議院議員にご参加頂き、インドネシ アのジャカルタと東ティモールの ディリで視察を実施しました。



ジャカルタ市内のペルサハバタン病院で結核患者の話を聞きました。結核患者さんは毎日通院して医療従事者から薬をもらい、目の前で服用しなければいけません。しかし、交通渋滞が深刻なジャカルタで毎日の通院は大きな負担であるため、現在は患者が住む地域にある保健センターで治療ができるように保健センターの改修が進められています。

求められる地道な取組みと継続的な支援

インドネシア・東ティモール視察に参加して

結核: 患者の発見と治療の継続が課題

インドネシアは結核高まん延国の一つで、世界で2番目に結核の発生数が多い国です。特に薬が効かない多剤耐性結核がまん延していることが深刻な問題となっています。今回の視察を通じて、多剤耐性結核患者の発見や、治療の継続が大きな課題であることを改めて認識しました。インドネシア保健省は多剤耐性結核の診断を強化する方針で、今後2年間で300

台の検査システムの導入や、多剤耐性結核の治療ができるよう100カ所の保健センターの改修を予定しています。また、地域で結核を疑われる人をみつけ、保健センターへつなぎ、診断し完治するまでを支援する、元結核患者からなるコミュニティ・グループが重要な役割を果たしています。グローバルファンドの資金は、医薬品や機器類のほかにも、このようなコミュニティ・グループの活動にも使用されています。

エイズ:キー・ポピュレーションへの支援と国 民感情との間のジレンマ

国民の約9割がイスラム教徒のインドネシアでは、薬物使用は犯罪、そして同性愛は社会的にタブーとされています。近年、売買春施設の閉鎖や麻薬撲滅の取り締まりが強化されていることに加え、公の場で同性愛者の愛情表現が増えていることに対する国民の反感が高まっています。インドネシア政府は、セックスワーカー、薬物使用者、同性愛者などのエイズ対策を優先して届けるべきキー・ポピュレーションを対象としたHIV対策を早急に打ち出さなければいけないところですが、伝統・宗教的な価値観が障壁となり、積極的な取り組みに着手できずにいます。

社会から排除されるキー・ポピュレーションに対



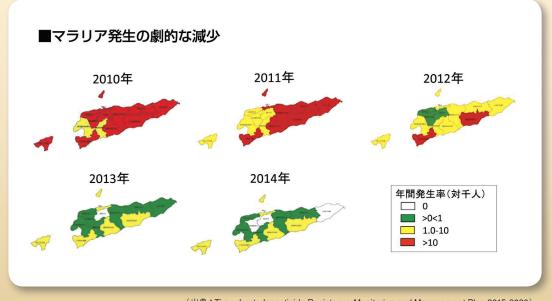
ジャカルタ市内の保健センターに、HIV 陽性者や当事者団体、支援団体のメンバー30名以上が集まって下さり、率直な話を聞くことができました。社会的な排除が高まる中でこうした会合が設けられたのは、グローバルファンドに対する信頼の証と思われます。

し、政府の代わりに医療サービスやケアを届けているのはコミュニティ・グループです。当事者やその家族からなるコミュニティ・グループはソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を駆使し、積極的にアウトリーチ活動を行っています。HIV対策の切り札となるコミュニティ・グループの人材育成やトレーニングなどに、グローバルファンドが果たす役割に期待したいと思います。

マラリア:根絶に向けた取り組み

21世紀最初の独立国東ティモールでは、かつて最大の死因の一つがマラリアでした。しかしこの10年足らずの間に、グローバルファンドの資金、世界保健機関(WHO)の技術支援などを受けて、マラリアの脅威は劇的に改善しました。島国であるという地理的な要因も幸いしているかもしれませんが、医療従事者の研修、長期残効型蚊帳の大規模配布、室内の殺虫剤散布、検査の質の向上、流行の予測やアウトブレイクの管理、意識啓発などの対策を、政府が本腰をいれて実施したことが功を奏したと分析されています。

東ティモールの医療水準はまだ低く、地方では医療施設での治療よりも伝統医療を選ぶ人が多くいます。 そこで保健省はグローバルファンドの支援を受けて、 村レベルの保健センターの数を3倍に増やし、人々が 身近な場所でマラリアの診断や治療を受けられるよ うにしています。訪問したヘラ村では、科学的な効果 を確かめながら長期残効型蚊帳の配布、屋内殺虫剤 噴霧、サーベイランスに地道に取り組んでいます。



(出典:Timor Leste Insecticide Resistance Monitoring and Management Plan 2015-2020)

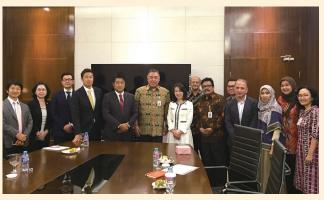


マラリアが流行する雨季が始まる前に屋内で殺虫剤噴霧を行う。

日本のグローバルファンドへの支援に感謝

今回の視察では、在東ティモール日本大使館の協力を得て、ルイ・マリア・デ・アラウジョ首相への表敬訪問、マリア・ド・セウ・サルメント・ピナ・ダ・コスタ保健大臣やドアルテ・ヌネス国民議会第二副議長ほか国会議員など、政府や議会関係者とも懇談する機会を持ちました。

医師でもあるアラウジョ首相は、マラリアの流行が 激減した東ティモールは、日本のグローバルファンド への支援が途上国で目に見える成果を挙げている具 体的な好事例であると強調し、グローバルファンドと のパートナーシップを評価し日本への感謝の念を表し ました。また、保健分野における今後の日本との協力 関係に期待したいと述べました。



インドネシアのウントン保健省次官との会合 ウントン次官(中央)の左に木原誠二議員、黄川田仁志議員、濱村進議員、次 官の右が豊田真由子議員

アジアの感染症対策

一週間の視察を通じて、グローバルファンドの支援 が両国で大きなインパクトを与えていることを確認し、 保健システムやコミュニティの強化などいくつかの課題を把握することができました。グローバル化に伴い 国境を越えた人の移動が増加する中、日本はアジアの感染症対策に一層の協力をしていく必要があります。特に長い期間の実績を持つ結核に関して、日本は途上国の行政官や医師を対象とした国際研修や、専門家の派遣のほか、日本企業が開発した治療薬や診断システムの活用など、グローバルファンドを通じた資金的協力と補完関係となる様々な協力の可能性が秘められていることを認識しました。

(日本国際交流センター プログラム・オフィサーレオン・シャオイン)



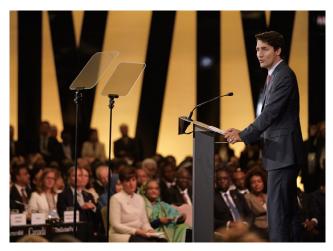
左から: 濱村進議員、黄川田仁志議員、 アラウジョ首相、豊田真由子議 員、國井修グローバルファンド 戦略・投資・効果局長、山本 栄二駐東ティモール日本大使

グローバルファンド増資会合にて129億ドルの誓約

グローバルファンドの第5次増資会合が9月16-17日にカナダのモントリオールで開催されました。増資会合は3年ごとに開かれ、ドナー国政府などがグローバルファンドへの拠出誓約を宣言する公式会議です。今回の増資会合に先立って昨年12月に東京で開催された準備会合で、130億ドルという目標増資総額が設定されましたが、果たしてその目標に達することができるのか、会合閉幕まで関係者の努力と奔走がありました。

今回、もっとも懸念されていたのがイギリスからの 拠出誓約でした。イギリスのEU離脱がどのような影響を与えるのか関係者の不安が残る中、最終日に登壇したイギリスのパテル国際開発大臣が11億ポンドの誓約を発表した時には場内は大きな拍手に包まれました。ビル&メリンダ・ゲイツ財団とホスト国であるカナダ政府が会議初日発表した拠出誓約のさらなる増額を決定し、目標額をほぼ達成する129億ドルが誓約されました。

多くの参加者がグローバルファンドへの謝辞を述べる中、マーク・ダイブル事務局長が繰り返し強調した



グローバルファンド増資会合で開会スピーチを行うカナダのトルドー首相

のは、称えるべきは現場で日々感染症の苦しみと闘う 当事者や家族、声なき人々のために声を上げている 活動家や医療従事者であり、グローバルファンドは彼 らとともに在る、ということでした。実際、会合のプロ グラムを通じて、ユースの同性愛者活動家、HIV陽 性者として生まれた活動家やアフリカのコミュニティ に根差す市民社会グループなどが登場し、当事者と 現場の声を届けました。

各国政府の拠出誓約の裏には、世界の市民社会 組織の継続的なアドボカシー活動があります。増資会 合に先立って行われた市民社会ネットワークの会議で は、「今回の増資の成功は多いに評価したい。ただし 来週の月曜日(つまり増資会合が終わった直後)から は、今回の誓約が実行されることを見届けなければ ならない」という発言があり、三大感染症の終息の実 現のためにはグロールファンドに十分な資金が拠出さ れることの重要さを改めて確認しあいました。

> (米国法人日本国際交流センター 国際保健ディレクター 渡邉 啓子)

■第5次増資会合での主な拠出表明

ドナー	金額
米国	43億米ドル
英国	11 億ポンド
フランス	10.8億ユーロ
ドイツ	8億ユーロ
日本	8億米ドル
カナダ	8億400万カナダ・ドル
欧州委員会	4億7500万ユーロ
スウェーデン	25億クローナ
ノルウェー	20億クローネ
オーストラリア	2.2 億豪ドル
イタリア	1億4000万ユーロ
ビル&メリンダ・ゲイツ財団	6億米ドル
(RED)	1億米ドル
その他民間企業・団体	1億5000万米ドル

(グローバルファンドのウェブサイトを元に作成)

JCIR

公益財団法人 日本国際交流センター(JCIE)

日本国際交流センターは、民間レベルでの政策対話と国際協力を推進する公益財団法人。民間外交のパイオニアとして、1970年の設立以来、非政府・非営利の立場からグローバルな知的交流事業を実施しています。東京とニューヨークを拠点に、外交・安全保障、グローバルヘルス(国際保健)、ダイバーシティ、グローバル化と外国人財などの多角的なテーマに取り組んでいます。

fGf!

グローバルファンド日本委員会は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (グローバルファンド)を 支援する日本の民間イニシアティブです。グローバルファンドに対する理解を促進するとともに、感 染症分野における日本の役割を喚起し、政策対話や共同研究、国際シンポジウム、視察プログラム などを実施しています。(公財)日本国際交流センターのプログラムとして運営されています。

FGFJレポート 2016年11月 No.11

編集·発行:

公益財団法人 日本国際交流センター(JCIE)

〒106-0047 東京都港区南麻布4-9-17 Tel: 03-3446-7781 Fax: 03-3443-7580

Mail: fgfj@jcie.or.jp http://fgfj.jcie.or.jp